

## 薬剤師生涯学習に関して何が出来るかを考えてほしい

内山 充

6年制薬剤師教育の体制が出来上がった。ここまで、いくつもの問題点が明らかとなり見直しも進んでいるが、薬剤師実務と方向性を同じくする教育原則が採用されたことは間違いない。そして、卒後の生涯学習との連携によって、はじめて社会の求める薬剤師が作られる。それゆえに、生涯学習の推進は薬剤師であるもの全員の社会的責任でもある。

生涯学習の場は研修提供機関（プロバイダー）によって作られ、プロバイダーは受講者である多くの薬剤師により支えられて成熟する。したがって生涯学習の成否は、教える側と学ぶ側の双方の努力と実践に懸かっている。薬剤師の卒後研修には公的な指導や拘束が一切無く、薬剤師自身の自主・自律的責任に任されていることを考えれば、薬剤師は、自分が生涯学習に関して何が出来るかを常に考えてほしい。

生涯学習を考える上で第一に必要なことは理念としての目標である。そこから役割と生涯学習の基本原則が作られ、次いで望ましい学習環境(条件)が設定される。本年1月10日付けの本コラムで紹介した『[求められる薬剤師への道程](#)』を参考に、それらを共通認識として持った上で、有効な学習課題と内容の選択、さらに学び方、実施法等の手段を考え、自らの立ち位置に応じて、今何が出来るかを決めて実行してほしいものである。

### 薬剤師機能の向上

薬剤師の業務は、あらゆる場面で、患者主体の医療に貢献し、地域の保健・医療と生活改善に寄与することを通じて、「人と社会に役立つ」ことを最終目標としている。それに必要な薬剤師の専門職能（プロフェッショナル）には「能力・適性」と「機能」がある。能力は知的財産で、身につけるものであるが、機能は職務責任を果たす実践・行動の力であり、外部への発信力である。これからは、専門職倫理に立脚した正しい判断に基づく的確な発信と、責任のある適切な行動の出来る薬剤師だけが生き残れる。薬剤師の生涯学習に求められているのは、知識と経験の蓄積だけではなく、それを実務の上でいかに生かせるかの、機能の向上であることをいつも意識していなければならない。

### 薬剤師の生涯学習の方向性

薬剤師業務は原則として疾病や診療科を特定しない全方位型である。常に進歩している医療と薬物療法及び医薬品に対応できる能力の獲得を怠ることなく、優れたジェネラリストを目指す総合的職能向上を目指す「生涯研修」が最も重要であり、基本である。

それと平行して、自分の得意な領域を自らの責任で学習して知識と経験を深め、特定の領域について地域医療やチーム医療の中で、求めに応じてサービスを提供し、能力を発揮できるように研鑽を深めておくための「領域専門研修」も必要である。

総合的生涯研修についても、領域に特化した研修についても、すべて医療は互いの信頼の上に成り立っているから、信頼性こそが、薬剤師が医療職としての職能を発揮するための必須要件である。自主・自律に任されている薬剤師の生涯学習が社会からの信頼を得るためには、生涯学習の内容と成果の質を保証する第三者評価・認証の仕組みが不可欠であることは言うまでもない。

### おわりに

教育制度改革という、薬剤師にとって大きな変革期を迎えているわれわれは、その貴重な機会を無駄にしてはならない。何を目標とし、それに対応できる最善の方法は何か見出すことが必要である。それは、薬剤師の将来を開く「人づくり」につながるに違いないからである。

(2012. 3. 22)